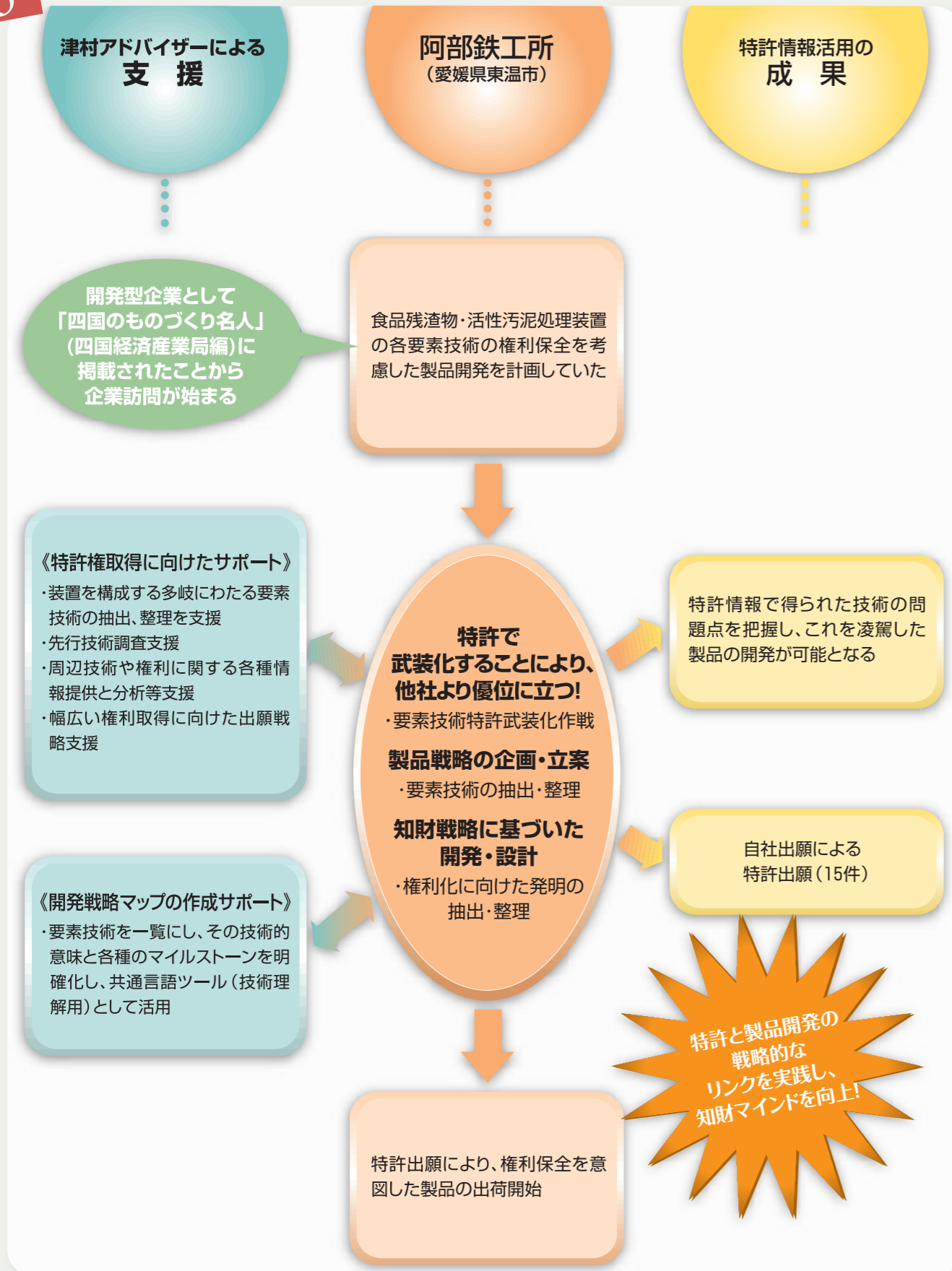


技術開発を形ある知的財産で武装し経営戦略の核に!

Case 3

食品残渣物・活性汚泥処理装置の開発・商品化支援



津村 信二郎 (愛媛県) 特許情報活用支援アドバイザーの一言



四国のものづくり名人(四国経済産業局編集)に長大カーブベルトコンベア(通称:へビコン)が掲載され、開発型企业であることを知り訪問させていただきました。ちょうどその頃食品残渣物・活性汚泥処理装置を開発中であり、この開発行為に特許の一面からではありますがサポートをしました。

この装置の技術は多岐にわたり、これらを構成する要素技術を明確化し、これらすべてに権利取得を考え、「要素技術特許武装化作戦」として提案しました。それぞれの要素技術毎に従来技術との差異評価等の技術談義、若しくは新技術の実験結果の良否を丁寧にお教えいただき、これらを出願書類に反映していただくようアドバイスしました。その結果、各要素技術を特許出願で武装化し、権利保全を意図した製品出荷に貢献できたと思っています。

企業からのひとこと

特許については自ら出願の経験も何度もあり、今回も食品残渣物・活性汚泥処理装置である乾燥機について全体的に権利の取得を図るつもりでいました。しかし、津村特許情報アドバイザーのアドバイスを基に各要素技術ごとに各個撃破の考えを導入していただき、ネーミングも「要素技術特許武装化作戦」として気に入りました。この作戦に従って、時には変更して、改良に改良を重ね、また実験につぐ実験を行って製品開発を完了することができました。

また、津村特許情報アドバイザーが訪問されるときは、いつも関係する先行技術文献を抽出していただき、これを参考にして脱水装置などで技術改良を図ったものもあります。更には搬送機器など既存技術と考えていたものにも優位差を見出し特許出願したものもあります。

今般、津村特許情報アドバイザーのサポートを得たことにより特許情報を利用した開発ができ、その結果、効率的な開発をすることができました。この製品に関する特許出願は15件ののぼり、この武装化によって製品の優位差をアピールし販路拡大に役立てたいと考えています。また今回のサポートを得て、製品開発の際、要素技術を明らかにする手法によって戦略的に知的財産を考察できるようになり、今後は知的財産を企業経営の核に位置づけたいと考えています。

支援先企業の概要

会社名 阿部鉄工所

■住所 愛媛県東温市南方 ■設立 1968年 ■代表者 阿部 良博

1968年6月愛媛県松山市古川町で創業し、その後の事業拡大により現在の地に移転。現在研究所の設立に向け準備中。事業内容は汚水処理装置、活性汚泥処理装置、大型脱水機、砕石プラント、電気集塵機、土砂搬送設備等の開発・設計・製造・施工。循環型リサイクルシステムの開発を目指して多種多様な機器開発に積極的に取り組んでいる。

この支援によって開発・販売された商品

商品名 食品残渣物・活性汚泥処理装置 [ヘルン]

概要

生ごみ、食品残渣物、有機汚泥、無機汚泥等の乾燥の短時間化、この乾燥時に発生する臭気問題の解決、この乾燥機の前工程の粉砕・脱水、後工程の搬出にいたるまで新機構を採用

特徴

乾燥途上で処理物が集合固化し粘性をもって大塊になるのを防止するため、処理物を反転、逆転、分解、分散させる機構と、またこの処理物との直接伝熱面積の拡大を行うため蒸気を隅々まで浸透させ接触面積を広げる機構とを有し、蒸散を促進させるため湿り空気を気水分離して除去する機構をも有している。更に臭気についても外部に出さない軸受けの機構、粉砕・脱水を同時に行う機構および搬出袋詰め機構も有する。

